

音更町総合計画推進委員会会議結果（要旨）

会議名	第2回音更町総合計画推進委員会
開催日時	平成29年12月21日（木） 午後3時00分から午後5時00分
開催場所	音更町役場庁舎2階庁議室
委員出席者	津久井委員長、荒川委員、河田委員、小林委員、土田委員、畠委員、宮崎委員、吉川委員
オブザーバ出席者	北海道十勝総合振興局地域創生部地域政策課長 小林氏 北海道十勝総合振興局地域創生部地域政策課主査（地域創生） 若槻氏
町側出席者	渡辺企画財政部長、高橋企画課長、戸田防災係長、西岡企画調整係長、松島企画調整係主事、増地企画調整係主事
傍聴者	なし
議題・諮問内容	1 開会 2 あいさつ 3 議件 （1）重点施策推進管理評価調書、総合戦略推進管理評価調書の検証について 4 その他
会議資料	・音更町総合計画推進委員会議案 ・重点施策推進管理評価調書、総合戦略推進管理評価調書 ・平成28年台風10号災害対応検証報告書概要 ・音更町地域公共交通網形成計画概要版 ・（冊子）第5期音更町総合計画後期分、音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略、音更町まちづくり町民アンケート結果報告書
会議結果	下記のとおり
出された主な意見等	<p>【防災】</p> <p>委員：昨年の台風の際、避難所の一つで渋滞が発生したが、避難所までの交通整理をすることである程度解消できるのではないか。</p> <p>事務局：避難に際して、歩ける人は極力歩いてくださいというのが基本と考えている。自主防災組織の中には、訓練として避難所までみんなで歩くといった取組をしているところもあり、それらの方々の協力を得ながら浸透させていきたい。</p> <p>委員：避難勧告と避難準備の違いは？今回は避難勧告がいきなり発令された？</p> <p>事務局：「避難準備・高齢者等避難開始」から始まって、避難勧告、避難指示、避難指示（緊急）といった順に出すのが理想だが、現実的にはなかなかそうならない。今回の台風でも数十分で避難勧告水位まで達しており、避難準備情報を出す間もなく勧告が出てしまったというのが現状。</p> <p>委員：避難所の受付でマイナンバーカードのICチップを活用できないか。</p> <p>事務局：設備投資の問題等もあってそこまでは考えてはいないが、受付の様式を簡略化等については検討</p>

している。

委員：暮らしと防災ガイドブックはどのように配布しているのか。

事務局：官民協働事業ということで、事業者さんがポスティングで全戸配布し、転入される方にはその都度配布する方法で全戸に配布できるようにしている。

委員：広報紙と同じように公共施設やコンビニに等にも置いてあれば意識啓発にもつながるのでは。

委員：要支援者の名簿の更新は1年ごとなどの方がよいのでは。

【公共交通】

委員：直近の実績を踏まえると、公共交通網形成計画の目標でコミバスの1日当たりの利用者数が33年度に100人というのは低いのでは。

事務局：計画策定段階時の実績では平均が91.2人ということで、これを基に100人という目標値にしている経過がある。

委員：まだコミバスに乗ったことがない方への周知が必要では。

事務局：職員が直接バスに乗り込んで、利用者の声を聞いたりもしており、普段利用している方は便利に利用しているという方がほとんどだが、利用者が増加傾向にあるとはいえ、更に新規の掘り起こしは必要だと思っている。

委員：安心安全で乗れるのであれば子どもだけの利用も考えられる。子どもと高齢の方が同じ空間にいられることもよいことでは。

事務局：子どもの頃から公共交通に慣れ親しんでもらうことによって、大人になっても将来的に路線バスの利用につながるというようなことも期待できる。

委員：農村部のデマンドの実証実験を計画しているが、本運行に移行する基準等はあるのか。

事務局：数値的な設定はしていないですが、冬と夏の実証運行の結果を見て判断する。

委員：料金設定の考え方は？

事務局：十勝管内では帯広と幕別町で農村地域のデマンドタクシーを導入しており、一番高い料金設定で1,000円、高いところはそこに合わせ、バスよりも高くタクシーよりも安いといった設定にしている。